

中学校統合に係るメリット・デメリット 整理表

R4. 6. 13 整理

項目	1校統合		2校統合		現行6校	
	Pros (メリット)	Cons (デメリット)	Pros (メリット)	Cons (デメリット)	Pros (メリット)	Cons (デメリット)
01 生徒数の 予測	<ul style="list-style-type: none"> ○望まれる学校規模として、クラス替えが可能な1学年複数学級が確保できる ○1学級20名から30名程度の規模が確保できる 【学校規模予測】 ・R8年度 607人 16学級 ・R15年度 392人 11学級 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校規模の変化による生徒の困惑 	<ul style="list-style-type: none"> ○望まれる学校規模として、クラス替えが可能な1学年複数学級が確保できる ○1学級20名から30名程度の規模が確保できる 【学校規模予測】 ・R8年度 A校370人・11学級 B校237人・8学級 ・R15年度 A校253人・8学級 B校139人・5学級 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校規模の変化による生徒の困惑 ●数年後にはクラス替えが可能な1学年複数学級ができない可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数のため、各生徒に教員の目が行き届く ○生徒の特性の把握が容易 	<ul style="list-style-type: none"> ●吉田中を除いて、クラス替えが可能な1学年複数学級が確保できていない ●吉田中→R4年度239人・7学級 ●将来的に、1学級20名から30名程度の規模が確保できない
02 学習面	<ul style="list-style-type: none"> ○集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばすことができる ○運動会や学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい ○グループ学習や習熟度別学習など多様な学習・指導形態が取りやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ●全教職員による各生徒の一人ひとりの把握が難しくなりやすい ●学校行事において生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ○集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばすことができる ○運動会や学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい ○グループ学習や習熟度別学習など多様な学習・指導形態が取りやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ●全教職員による各生徒の一人ひとりの把握が難しくなりやすい ●学校行事において生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすい ○学校行事において生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ●集団の中で多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会が少なくなりやすい ●1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい ●運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい ●グループ学習や習熟度別学習など多様な学習・指導形態が取りにくい

項目	1校統合		2校統合		現行6校	
	Pros (メリット)	Cons (デメリット)	Pros (メリット)	Cons (デメリット)	Pros (メリット)	Cons (デメリット)
03 生活面	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい ○切磋琢磨すること等を通じ、社会性やたくましさ等を育てやすい ○学校全体での組織的な指導体制を組みやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ●学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい ●全教職員による生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい ○切磋琢磨すること等を通じ、社会性やたくましさ等を育てやすい ○学校全体での組織的な指導体制を組みやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ●学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい ●全教職員による生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒相互の人間関係が深まりやすい ○異学年間の縦の交流が生まれやすい ○生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ●組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい
04 部活動の実態	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動の選択肢が広がることで一人一人の可能性や特性を伸ばせる <p>【選択肢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育系 17 ・文化系 5 		<ul style="list-style-type: none"> ○部活動の選択肢が広がることで一人一人の可能性や特性を伸ばせる <p>【選択肢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育系 14 ・文化系 2~4 			<ul style="list-style-type: none"> ●集団で行う活動が制限され、種目選択の機会が狭められる ●生徒数の減少により団体競技の運営が困難 <p>【選択肢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育系 5~12 ・文化系 1~3
05 施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ○新設の場合、最新の設備を提供可能 ○文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」に基づいた施設整備が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ●多額の建築費が発生する <p>【新設経費】</p> <p>概算 2,900 百万円</p> <ul style="list-style-type: none"> ●将来的に施設・設備が過大となる懸念あり 	<ul style="list-style-type: none"> ○現校舎の利用検討も可能 ○時期を見て適正規模の新設が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ●一部改修では最新の設備提供にならない ●多額の建築費が発生する <p>【2校新設経費】</p> <p>概算 4,500 百万円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各校の状況に応じて、順次改修が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ●老朽化に伴い、長寿命化に向けた全6校の改修が必要 <p>【既存校改修経費】</p> <p>1校当たり 531 百万円 ~ 934 百万円</p>

項目	1校統合		2校統合		現行6校	
	Pros (メリット)	Cons (デメリット)	Pros (メリット)	Cons (デメリット)	Pros (メリット)	Cons (デメリット)
06 通学		<ul style="list-style-type: none"> ●各町からのスクールバスが必要で、路線も多く長距離輸送のため経費が多額 ●令和8年度必要見込み台数 10台 【概算費用】 69百万円 ●通学区域の広域化により、通学距離や通学時間が生徒の心身の負担につながる 		<ul style="list-style-type: none"> ●スクールバスは必要であるが、近距離のため経費はやや少額 ●令和8年度必要見込み台数 7台 【概算費用】 48百万円 ●通学区域の広域化により、通学距離や通学時間が生徒の心身の負担につながる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどの学校で現行の自転車通学が可能 ○スクールバス経費は最少 	
07 教員配置	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員数は学級数を基に算出され、学級数が多いほど専門性を有する教職員を複数名配置できる 【基礎定数】 R8年度見込み 1校 16学級 →教諭等 24人 【専科の教諭】 15学級以上 →音楽、美術、技術・家庭科を合わせた教諭等分として4名配当 		<ul style="list-style-type: none"> ○教職員数は学級数を基に算出され、学級数が多いほど専門性を有する教職員を複数名配置できる 【基礎定数】 R8年度見込み A校 11学級 →教諭等 17人 B校 8学級 →教諭等 13人 【専科の教諭】 ・10～14学級 →音楽、美術、技術・家庭科を合わせた教諭等分として3名配当 ・7～9学級 →音楽、美術、技術・家庭科を合わせた教諭等分として2名配当 			<ul style="list-style-type: none"> ●職員数が少ない為、教職員1人当たりの分掌事務が多くなる ●同一学年での教員数が少なく、教科研究や情報交換が難しい 【定数】 現状 3学級 →教諭等 7人

項目	1校統合		2校統合		現行6校	
	Pros (メリット)	Cons (デメリット)	Pros (メリット)	Cons (デメリット)	Pros (メリット)	Cons (デメリット)
08 その他	○保護者が増え、PTA等の活動が活性化する ○PTA活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散することができる	●広域化により、保護者や地域との連携が難しくなりやすい	○保護者が増え、PTA等の活動が活性化する ○PTA活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散することができる	●広域化により、保護者や地域との連携が難しくなりやすい	○保護者や地域との連携が図りやすい	●PTA活動等における保護者の一人当たりの負担が大きい